

企業の人材課題を地域で解決する  
— 高専と労働協会がつくる新しい“共育”モデル

➤ はじめまして。大阪労働協会です。



### 組織概要

設立	昭和21年5月25日
所在地	大阪府大阪市中央区石町2-5-3
基本財産	100,000,000円
職員数	93名(2026年4月時点)
事業内容	施設指定管理事業 人材開発事業 テナント賃貸事業など
グループ会社	株式会社ワークアソシエ



### 公共事業 (PUBLIC)

国や地方自治体から事業を受託しています。  
就職や採用にまつわる事業が多くを占めます。

国や地方自治体からの委託を受け、地域社会や雇用の活性化に貢献する事業を展開しています。特に、就職や採用支援に関する事業に強みを持ち、地域の人材育成や職業紹介などを通じて、多くの方々のキャリア形成を支援しています。



### 収益事業 (PROFIT)

経営リソースを活用し、企業や個人向けに研修や教育サービスを展開しています。

企業や個人向けに、これまで培ったリソースを活用した研修・教育サービスを展開しています。特に、就職支援やキャリア教育、職業訓練といった分野での実績とノウハウを基盤に、クライアントの成長をサポートする多様なプログラムを展開しています。



### 新規事業 (INNOVATION)

公共事業の運営で培ったノウハウを活かし、自主事業などの新しい事業を生み出しています。

公共事業で蓄積した豊富なノウハウと経験をもとに、独自の自主事業や新しいサービスを立ち上げています。社会のニーズに応じた柔軟なアプローチで、新たな価値を創造し、地域社会やクライアントに対して革新的なソリューションを提供しています。

## 1. 企業の“リアルな課題”

# 1. 企業の“リアルな課題”

## (1) 企業が直面する技術人材確保の課題

### ➤ 企業の技術者不足は「人数不足」だけではない

育成負荷、技術変化が同時に進み、単独企業では解きにくい課題になっている

人手不足倒産(2024年)

過去最多

※中小企業白書2025

育成強化はOJT中心

7割程度

※中小企業白書2024

2030年IT人材不足の最大推計

79万人

※経産省 IT人材需給調査

DX推進人材の不足感

深刻化

※IPA DX動向2024

1 若手採用・定着の壁  
母集団形成が難しく、採用できても“現場に合う育成”へつなげる前に離職リスクが高まる。

2 新領域への対応遅れ  
AI・データ・GX・自動化など、既存業務に追加で求められる技術領域が急拡大。

3 技術継承の断絶  
ベテランの暗黙知を若手に移す時間・人・教材が不足し、“OJT任せ”の限界が顕在化。

### ➤ 若手技術人材との接点づくりは、年々難しくなっています

認知

学生が  
企業名や技術領域を知らない。

接点

採用広報や説明会のタイミングだけでは学生と十分に話す機会を持ちにくい。

理解

学生が業界・職種・仕事内容を具体的に理解する前に企業を比較してしまう。

魅力発信

技術力、職場環境、若手の成長機会などが求人票や短い説明だけでは伝わりにくい。

マッチング

学生の関心や適性と企業の受入内容が整理されないまま接点を持つと、ミスマッチが起きやすい。

《問い: 求人を出すだけで、この課題は本当に解決できるのか。》

# 1. 企業の“リアルな課題”

## (2)課題の本質:採用前の「企業理解」が不足している

### ▶ 求人を出す前に、学生が企業を知る機会を増やすことが重要

よくある状況	企業側の課題	学生側で起きること
合同説明会で初めて企業を知る	限られた時間で事業・技術・魅力を伝え切れない	事前理解がないため、質問や比較検討が浅くなる
インターンシップ情報が届きにくい	受入内容を準備しても、対象学生に届く導線が弱い	自分に合うか判断できず、応募の一步が出にくい
企業規模や知名度で判断される	地域企業の技術力や働き方の良さが見えにくい	大手・有名企業中心に選択肢を絞りがち
採用期に急いで接点をつくる	関係づくりが短期間になり、深い相互理解に至りにくい	応募前の納得感が不足し、ミスマッチにつながる

整理すると・・・



学生にとっては、企業を比較するための材料が増える  
企業にとっては、自社の魅力が伝わる土台ができる

## 2. 今後の新しい取り組みについて

## 2. 今後の新しい取り組みについて

### (1) 新たな取り組みについて

#### ➤ 段階的な接点づくり

知る



企業名・業界・技術領域  
を知る

興味を持つ



社員との対話や仕事の  
リアルに触れる

体験する



インターンシップ等で  
職場や業務を具体化する

理解を深める



企業研究セミナーで  
比較・整理する

検討する



将来の応募・選考につな  
がる候補として考える

#### ➤ 接点づくりの役割

取組み	主な役割	学生への効果	企業情報の伝わり方
おもじょが高専 <b>NEW</b>	興味喚起・対話の入口	企業や仕事を身近に感じる	社員の言葉、雑談、働くリアルで伝わる
インターンシップ <b>NEW</b>	実地理解・体験	職場・業務・技術を具体的に理解する	受入プログラム、現場体験、社員交流で伝わる
企業研究セミナー	比較検討・理解の深化	業界・企業・職種を整理して考える	事業内容、技術領域、キャリア事例で伝わる

#### ➤ 接点①おもじょが高専:企業や仕事に興味を持つ入口



説明会より前に、学生が企業担当者と自然に話せる場をつくる

「おもじょが高専」は、企業研究セミナーとは異なり、企業担当者とのフラットな対話を通じて、仕事の楽しさややりがい、苦勞といった“働くリアル”に触れることを目的としたイベントです。



#### 位置づけ

- おもじょが高専は、企業担当者とのフラットな対話を通じて、仕事の楽しさ・やりがい・苦勞といった「働くリアル」に触れる場
- 採用説明を受ける前の段階で、学生が企業や仕事を身近に感じるきっかけをつくる。

#### 想定される対話テーマ

- 若手社員の一日の仕事、入社後の成長
- 技術職の面白さ、難しさ、やりがい
- 学生時代の学びが現場でどう生きるか
- インターンシップや企業研究につながる関心づくり etc





#### 得られる効果

- 採用活動前の関係づくり
- 企業理解・仕事理解の補完
- 将来のインターンへの導線

ポイント:おもじょが高専は「応募を促す場」ではなく、「企業や仕事への興味を育てる場」

おもじょが高専と企業研究セミナー イベント内容比較

参加者属性	1～2年生	3～4年生
参加人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公大高専から100～150名程度</li> <li>・他高専からの参加も多数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公大高専の3年生、4年生の全学生(約250名)</li> <li>・他高専からの参加も可能(参加人数少)</li> </ul>
出展企業数	10～15社程度	160～170社程度
企業ブース	<p>オープンで自由度が高く、気軽にブース訪問ができる。</p> 	<p>個社ごとに区切られ、集中して企業担当者から話を聞くことができる。</p> 
狙い・成果	<p>学生が、初めて企業担当者から話を聞く。「働くこと」そのものを考えるきっかけを作る。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">職業観の基盤形成</p>	<p>様々な企業からの説明を聞き、インターンシップ先、または就職先の絞り込みを行う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">進路決定とマッチング</p>
その他	<p>「おもじょが就職フェア」と同日同会場開催を行うことで、5年生や卒業生なども参加し、求人情報を手に入れることが可能。</p>	<p>学内でのイベント実施によって、高い学生参加率と、教職員の参加も行いやすい。</p>

## 2. 今後の新しい取り組みについて

### (3) インターンシップ

#### ➤ 接点②インターンシップ: 体験を通じて企業理解を深める



#### 学生が「自分が働く姿」を具体的に想像できる接点

学生がいきなり企業を選ぶのではなく、カウンセリングを通じて関心・適正・不安を整理したうえで、自分に合うインターンシップを検討する仕組みです。

#### 位置づけ

- インターンシップは、企業説明だけでは伝わりにくい仕事の進め方、技術の使われ方、職場の雰囲気や学生が体験的に理解する機会
- 学生の関心や適性を踏まえて接点を持つことで、将来のミスマッチ低減にもつながる

#### 期待できる効果

- 関心のある学生に届く
- 仕事の魅力が伝わる
- ミスマッチを抑える

#### STEP 1 個別相談

強み・関心・不安を整理

#### STEP 2 自己理解

「何を体験したいか」を言語化

#### STEP 3 企業情報閲覧

EventHubで  
技術・体験内容を比較

#### STEP 4 カウンセラーと検討

自分に合う  
インターン先を考える

#### STEP 5 企業との接点

面談・インターン参加へ

ポイント: 単なるインターンシップ紹介ではなく、学生の自己理解を起点に、企業との納得感ある接点をつくります。

#### ➤ 学生が「働く姿」を想像できる体験設計

##### 学生に届くインターンの条件

会社説明だけでなく、  
仕事・技術・人・職場のリアルに触れられる内容が重要。

##### 協会が支援すること

企業情報を学生に届く表現へ整理し、  
面談設定や必要に応じた同席支援まで行う。

#### 企業情報掲載(例)

##### 企業情報

事業内容／技術領域／  
製品・サービス／所在地

##### 対象学生

関連コース／学年／  
必要な基礎知識

##### 体験内容

見学／実習／課題／  
設計・開発・製造現場の体験

##### 受入条件

時期／日数／人数／場所

#### プログラム設計(例)

##### エネルギー機械

設備・ロボット制御／製造ライン改善

##### プロダクトデザイン

製品企画・試作／UX検証

##### エレクトロニクス

回路設計／組込み開発／センサ評価

##### 知能情報

AI・データ分析／Webアプリ開発

※複数コース受入可能であれば 各コースごとのプログラムが必要です

学生が仕事を理解し、自分に合うかを考えられる体験設計が、将来の相互理解とミスマッチ低減につながります。

#### ➤ 接点③ 企業研究セミナー: 業界・技術・仕事を体系的に理解する

企業比較や進路検討につながる情報を、整理して届ける場

2013年度より大阪公立大学工業高等専門学校で実施している企業研究セミナーです。今年度も平日開催とし、授業の合間でイベントを開催します。2日間で最大170社出展(予定)の業界研究会を開催します。各日出展企業は、完全入替制です。学生は両日参加予定で、どの企業も多くの学生と出会えるチャンスがあります。

##### 〔日 時〕

2026年12月14日(月)・15日(火)  
13:00~17:35

##### 〔場 所〕

大阪公立大学工業高等専門学校 体育館  
(大阪府寝屋川市幸町26-12)

##### 〔当日のタイムスケジュール〕(予定)

時間	摘要
12:00-12:30	企業受付・ブース準備
12:40-12:50	開会式
13:00-17:35	企業研究セミナー 【第1部】13:00-15:05 15:05-15:30 休憩・学年入替 【第2部】15:30-17:35 ※両日【第1部】4年生、【第2部】3年生
17:35	終了

##### 位置づけ

- 企業研究セミナーは、企業担当者による説明や交流を通じて、業界動向・事業内容・技術分野への理解を深める機会。
- 高専で学ぶ専門知識が社会でどのように活かされるのかを知り、進路選択の材料を蓄積。

##### 想定される内容

- 企業の事業内容・技術領域の紹介
- 若手技術者のキャリア事例
- 専門分野との関連性の説明
- 業界動向・成長分野の紹介
- 質疑応答・交流機会

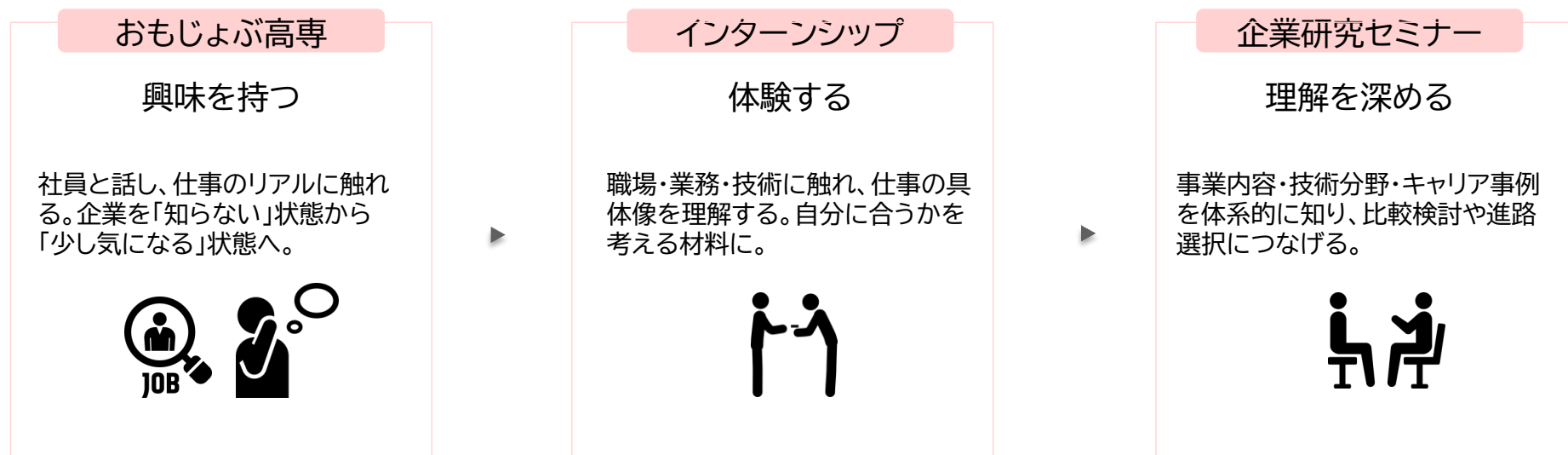
##### 得られる効果

- 採用活動前の関係づくり
- 企業理解・仕事理解の補完

※次年度より、開催場所が学校移転に伴い変更となります。

#### ➤ 3つの取組みの関係性:接点を点で終わらせない

興味喚起・体験・理解深化をつなげることで、学生の企業理解が段階的に深まります



就活年次に応募先を検討する



企業にとっても3つの接点を用意することで、  
学生の理解段階に応じた入口をつくり、将来のインターンシップ・合説・応募につながる土台を整える

### 3. 最後に

### ➤ 企業情報を学生に届く形へ整理する

企業と高専生の間に入り、接点づくりを進めやすくするハブ機能

#### 企業側の情報

- ・ 事業内容・技術領域
- ・ 若手社員の仕事内容
- ・ インターンシップ受入の考え方
- ・ 学生に伝えたい魅力
- ・ 高専生との接点に関する関心

#### 大阪労働協会の整理・橋渡し

- ・ 企業情報を学生向けに整理
- ・ 接点の目的を明確化
- ・ 学校・学生に届く表現へ調整
- ・ イベント・相談・企業研究への接続
- ・ 必要に応じて個別調整

#### 学生・学校側への届き方

- ・ 業界・職種理解の材料
- ・ インターンシップ検討の材料
- ・ 企業研究セミナーでの比較材料
- ・ 進路指導・相談時の参考情報
- ・ 将来の接点づくりの候補

重要なのは、企業の情報をそのまま並べるのではなく、学生が理解しやすい形に整理して届けること。

「どの技術に関わるのか」「若手は何をするのか」「どのような成長があるのか」を具体化することで学生の興味・体験・理解につながる。

### ➤ 企業にとって期待できる効果:採用前から理解の土台をつくる

課題	3つの接点づくりで期待できること	企業側のメリット
学生に企業を知られていない	おもじょが高専や企業研究セミナーで、企業名・事業・技術領域に触れる機会が増える	知名度だけに左右されず、自社の技術や仕事の魅力を知ってもらう入口ができる
仕事内容が伝わりにくい	インターンシップや若手社員との対話を通じて、現場のリアルを具体的に伝えられる	求人票では伝わらない職場環境・成長機会・社員の人柄が伝わる
合説当日の対話が浅くなりやすい	前段で企業・仕事への興味が育つことで、企業研究セミナーや合説での質問の質が上がる	短時間でも深い対話につながり、将来のマッチング精度向上が期待できる

### ➤ 高専は“若い技術者候補”と“実践教育の場”を併せ持つ

#### 1. 手が動く実践教育

実験・実習を重視。設計・製作・検証まで経験し、現場に必要な“試す力”を育てやすい。

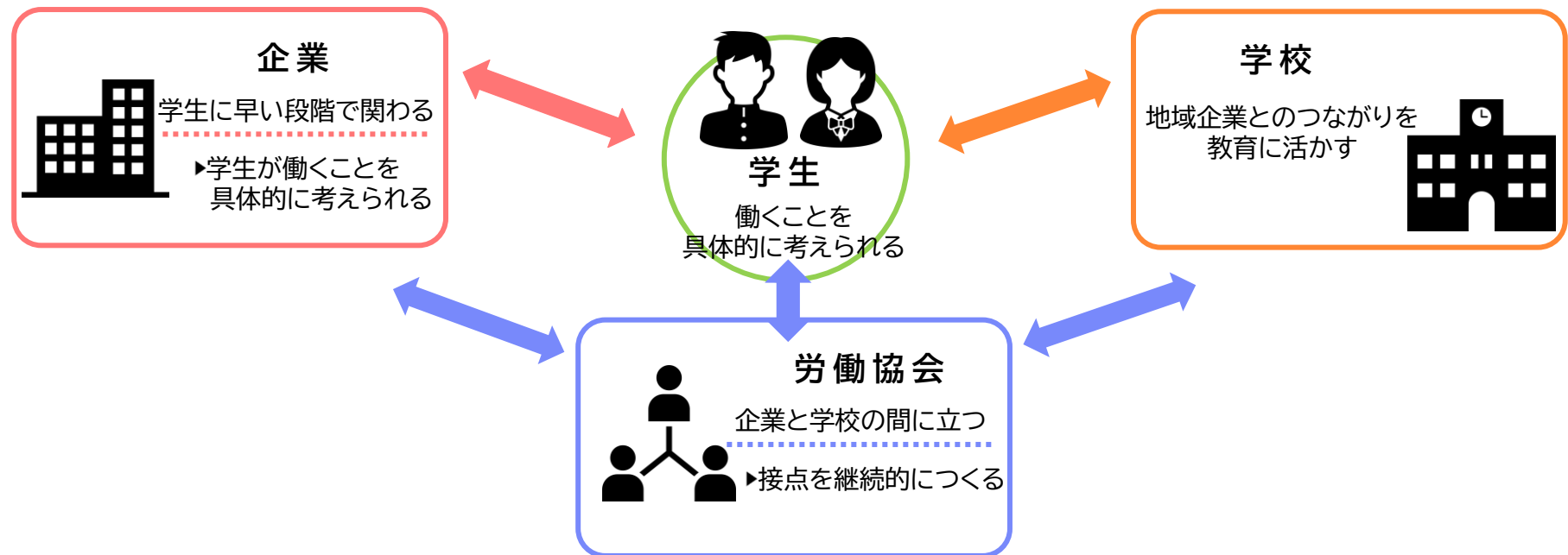
#### 2. 5年間の厚い基礎

数学・物理・情報・専門基礎を早期から積み上げ、技術を吸収しやすい土台がある。

#### 3. 地域密着

地元企業との継続的な関係をつくりやすい。

高専連携は「採用活動」だけではなく、未来の技術人材への育成投資。



地域全体で若い技術人材を育てていく土壌が生まれる